

## 2023年度「研究会活動支援制度」採択研究会一覧

2023.11.8(秋学期採択研究会追加)  
大学院キャリアパス推進室(事務局:RARAオフィス)

下記、「研究会の活動概要」などを踏まえ、メンバーへの追加参加や各種勉強会・セミナーへの参加希望がある場合、  
右の外部リンク(クリックしてください)から申し込んでください。申し込み内容は事務局が各研究会代表者にお繋ぎします。  
※2024年1月31日まで申し込み可能にしています。

こちらから申し込み→



| No | 研究会名  | 研究会の活動概要   | メンバー構成   |
|----|---|--|--|
| 01 | Public & Inclusion Research Project   | COVID-19の感染拡大が著しくなって以降、差別や貧困などの社会問題が改めて可視化された。本研究会の目的は現代の公共圏をテーマに、質的社会調査法を協同的に学ぶことにある。具体的には、研究報告会・輪読会・社会調査実習をおこなう。目標とする研究結果は、社会調査実習の報告書作成と、各々の研究成果の報告である。  | 社研×M2:2名<br>先端研×D5:1名<br>先端研×D2:1名<br>先端研×D1:1名<br>他大学×M2:2名<br>他大学×B5:1名<br>他大学×B3:1名         |
| 02 | マインドフルネス研究会   | マインドフルネス研究会では、2021年から活動してきました。イベントの参加は自由であるため、さまざまな領域の方が集まっています。今年度では、「欠損値処理」、「質的研究」などのテーマに関するイベント、そして、OICキャンパスで定期的な瞑想会も開催する予定です。本研究会の研究活動を通して、ほかの領域のメンバーとのコラボレーションを促すことを目指しています。                        | MOT×D3:1名<br>人間研×D3:4名<br>人間研×D1:1名  |
| 03 | 移動・空間・時間 研究会 (いくじ研)   | 本研究会では、世界の言語(主に日本語・中国語・韓国語・英語)を対照しながら、認知言語学(認知意味論)やその他の言語学の理論を援用し、言語の空間時間認知の一端を明らかにすることを目的としています。ここで得た知見を研究会員自身の研究に活かし、学会への論文投稿や発表、また、日本語教育、中国語教育といった実践に応用することを目指しています。                                  | 文研×D5:1名<br>文研×D2:1名<br>文研×D1:1名<br>言語研×M2:1名<br>先端研×研修生:1名<br>他大学×D3:1名<br>他大学×D1:1名          |
| 04 | 現象学研究会  | 本会の目標は現象学運動の解明である。今年度は特に、現象学と科学的実在論との関係の解明を中心的な課題とし、主に、この問題を扱ったフッサールのテキスト『イデー』の読書会をおこなう。また本会では、同書の読解を通じて、現象学の方法論や基礎概念をメンバー各人が習得すること(課題2)、さらには、参加者の個人研究発表や意見交流を通じて、各人の研究の発展に寄与すること(課題3)を目標としている。          | 先端研×D3:1名<br>文研×D3:1名<br>文研×D1:1名<br>文研×M2:1名<br>文研×M1:2名<br>社研×D3:1名<br>他大学×M:1名              |
| 05 | 社会運動論 研究会   | 本研究会は社会運動の理論と事例研究を通じて、社会運動におけるポリティカル・インターセクショナリティ(政治的交差性)を検討することを目的とする。本研究会のメンバーはそれぞれが研究する女性運動、LGBTQ運動、障害者運動の事例を、交差的な視点で考察することで、運動内部による覇権的文化の生産、または運動外部における連携の可能性を検討したい。                                 | 社研×D1:1名<br>先端研×D6:1名<br>先端研×D5:1名   |
| 06 | 独・仏現代哲学研究会  | 本研究会の目的は、フランス現代哲学におけるドイツ哲学の受容について研究を行うことにある。現在、フランス現代哲学を研究するにあたってドイツ哲学の影響を無視することは決してできない。本年度は、①カント哲学とフランス現代哲学、②ニーチェ、ハイデガーの解体の思想とフランス現代哲学という2つの柱を設定し、これらの観点から、ドイツ、フランス哲学の影響関係を探ることとする。                    | 先端研×D2:1名<br>文研×D5:1名<br>文研×D4:2名<br>文研×D3:1名<br>文研×D1:1名<br>文研×M3:1名<br>文研×M1:2名<br>文学部×B4:1名 |
| 07 | 日本思想史研究会  | 日本思想史研究会は、立命館大学の大学院生を中心に、ひろく地域・時代を問わず歴史・思想史を研究する会である。単に「日本の思想」を研究するのではなく、日本で/日本から歴史・思想史を研究すること、また思想史を越えて、文学・哲学・政治学・社会学など人文・社会科学の全般的な知識の習得を目指す。   | 文研×D5:1名<br>文研×D4:2名<br>文研×D1:2名   |
| 08 | 文構造研究会  | 本研究会は、日本語の文構造を研究し、その知見を実際の作文指導などに役立てることを目的としている。基本的な活動は、週1回の読書会である。言語学・日本語教育学の問題に取り組むために、丸山(2012)『ソシュールを読む』、寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ～Ⅲ』など主に言語学の基本書を講読している。また議論を通して得られた知見を実際の教育現場での指導法に役立てることを目指している。     | 文研×D1:2名<br>文研×D4:1名<br>文研×D1:1名<br>言語研×M1:1名<br>言語研×M2:1名<br>他大学×D1:1名                        |
| 09 | 明律研究会   | 本年度の明律研究会は、これまでの『書類纂』研究の継続と新規メンバーの修論・卒論に向けた史料の収集・読解・翻訳等を研究の中心に据える。欧米では「宋元明変革」と呼ばれることから、各研究分野である元明時代の白蓮教や留学生をとりまく社会の変化や連続性を法制、社会、宗教史料を総合的に利用し、明らかにしていく。又、同時期日本の社会や宗教界の観点も踏まえ、東アジア世界からの巨視的歴史理解にも努めていきたい。   | 文研×D5:1名<br>文研×D4:1名<br>文研×M3:1名<br>文研×M2:1名<br>文学部×B4:1名                                      |
| 10 | 立命館朝鮮近現代史研究会  | 本研究会は、立命館大学における朝鮮近現代史研究の深化および研究発信、研究者同士の交流、共同研究、対外的な研究交流などを目的とする。特に、植民地朝鮮における軍事動員問題、朝鮮人の満洲移民問題、韓国内における親日派の問題、「朝鮮王公族」の成立過程にみる韓国統治の多面性などをめぐって、朝鮮近現代史に関する視野と幅を広げて、研究の深化を目指す。                                | 文研×D4:1名<br>文研×D1:2名<br>文研×M3:1名<br>文研×M2:1名   |
| 11 | 「経済小説」研究会   | 本研究会は、「経済小説を輪読することで日本近代社会像を描き直す」という目的のもと、①「経済小説」を輪読する、②経済小説で扱われる労働や日本経済についての参考資料を踏まえて議論をする、という主旨で読書会・勉強会を企画する。文学のみならず人文社会科学全般にわたり、いかに労働問題や社会課題を捉えるのかということを検討することを目指す。                                    | 社研×D3:1名<br>先端研×D8:1名<br>先端研×D2:3名<br>先端研×D1:1名  |
| 12 | Research Society of Digital Marketing and Regulation Policy                               | 本研究会は、官民連携で日本のデジタルマーケティングにおける安全なパーソナル・カスタマイズ・サービスの提供を目指している。消費者の情報漏洩・乱用問題からはじまり、消費者は個人情報の提供を抑えるようになった。しかし、消費者の情報に基づいたカスタマイズ・サービスは消費者の購買体験や企業の売上増加に対して重要である。そこで、政府と企業の連携を取り組み、消費者の個人情報保護政策を提案することを目指している。 | 経営研×D2:1名<br>政策研×D1:1名<br>政策研×M1:1名  |
| 13 | メディア心理学研究会  | 本研究会はエンゲージメント行動を軸とし、メディア心理学に関心のあるメンバーを集め、お互いの交流を通じて研究分野を拡大し、多角的な視点からの研究が進められることを目指している。本研究会は投稿内容の信憑性や拡散意図、居場所作り、広告効果とSNS上での炎上行動という4つの点から、エンゲージメントが持つ影響力とその裏にどのような心理的アプローチがあるかについて検討する。                   | 人間研×D3:2名<br>人間研×D1:1名<br>人間研×M1:3名<br>経済研×M2:1名   |
| 14 | 現代東アジア映画研究会   | 本研究会の目的は、現代(1980年代～)の東アジア映画の観賞を通じて、映画のなかに現れる東アジア社会の様相とその変遷を理解することである。東アジアの社会と映像文化の急速な変容は、アジア地域の戦後史もしくは表象研究をする院生にとって、無視することのできない共通の課題あるいは問題意識である。映像作品の解釈能力の向上と東アジアの社会・文化事情を理解することが本年度の目標である。              | 先端研×D6:1名<br>先端研×D3:2名<br>先端研×D2:1名<br>先端研×D1:2名<br>先端研×研究生:1名<br>社研×D1:1名                     |
| 15 | 墓誌銘研究会  | 本研究会は、近年中国で陸続と発見されている出土文字史料を用いて、限られた文献史料の不足を補い、新たな歴史学的知見を得ることを目的とする。出土文字史料のなかでも、棺とともに墓室に埋納された、被葬者の生前の行状や人物評価を銘記する石刻「墓誌銘」は、その史料特性(顕彰碑として美化されていること)を理解した上で利用すれば、文献史料の情報を相対化することができる一級の史料群といえる。             | 文研×D5:1名<br>文研×D3:2名<br>社研×M2:2名   |
| 16 | 中東・イスラーム地域研究 院生研究会 / Graduate Student Society for Middle Eastern and Islamic Area Studies | 本研究会の目的は、中東・イスラーム地域を対象に地域研究を行う同世代の若手研究者(院生)が、各々遂行する実証研究の更なる高度化を図ることである。専門分野が近接する若手の「ノード」としての役割を担うべく、本研究会では、同地域の政治・経済・社会分野の理論的側面を扱った研究書の輪読、および個人研究報告と討論を行う。研究会を通し、メンバー各々の地域研究像を、自身の言葉で論じられるようになることを目指す。   | 国関D2×1名<br>国関D1×1名<br>国関M2×2名<br>国関M1×2名<br>MOTD4×1名<br>他大学D1×1名<br>他大学M2×2名                   |
| 17 | 原典講読会   | 本研究会は、歴史学や社会学等の原典を通じて、概念に対する内在的な接近と構造的な理解を学修・批判することを目的とする。研究目的の達成のため、テキストの思考様式を踏まえ、批判・議論を通じて、独自の価値観論と構造的な把握する方法を体得し、各者の研究に還元するための契機となることを成果とする。  | 文研M1×1<br>文研D1×1<br>先端研D1×1<br>文学部B4×1   |